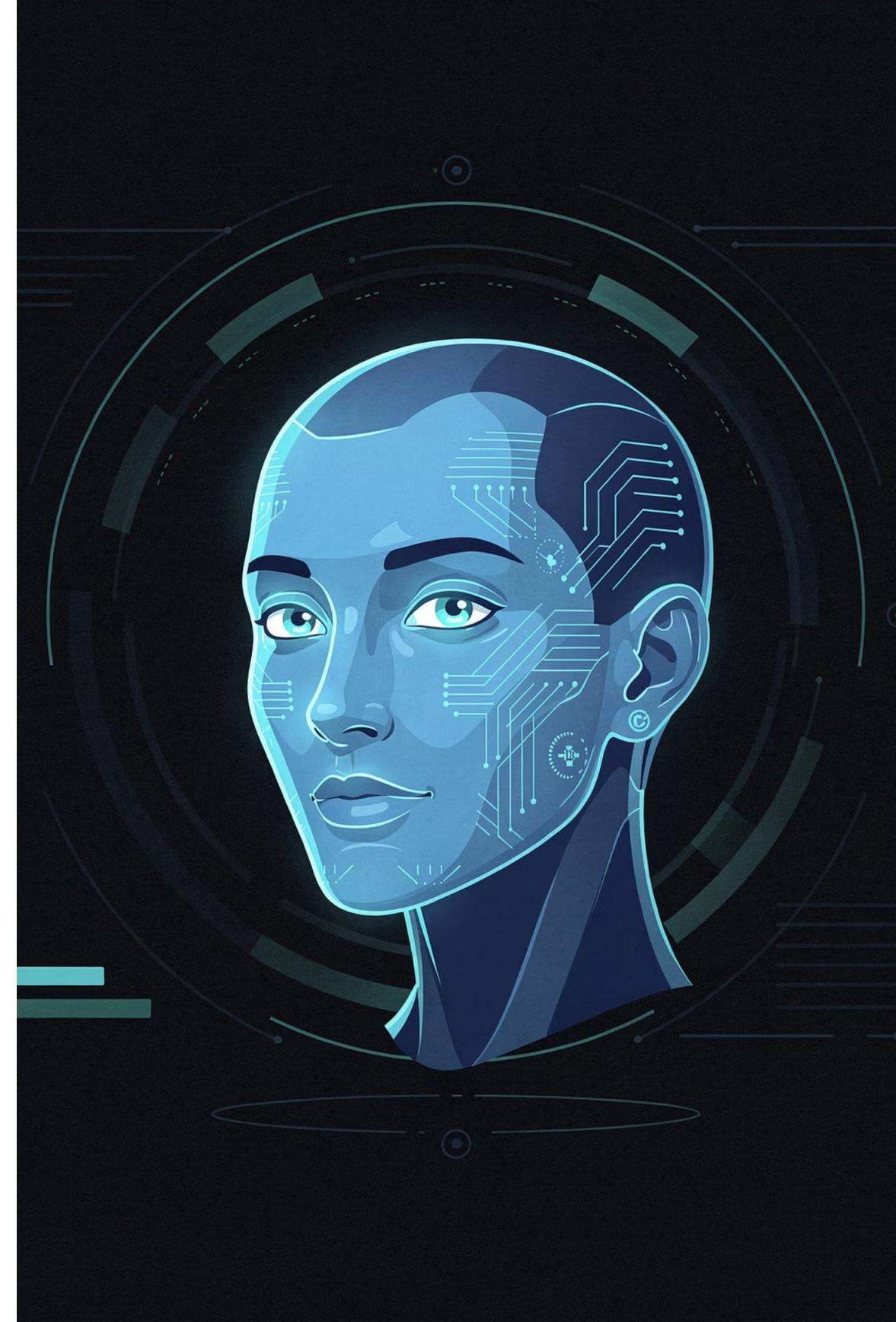


AIアバターが支える、人とのつ ながり

株式会社AIアバター 川嶋

本日はお時間をいただき、ありがとうございます。



本日のご紹介内容

01

AIアバターとは何か

単なる会話ツールを超えた、寄り添うインター
フェースとしての考え方

02

BtoB向けメンタルヘルス領域への注
力
可視化・管理とカウンセリングを一体化した
SaaSプロダクト

03

トラック業界への示唆

この考え方が、業界課題にどのようなヒントを
もたらしうるか

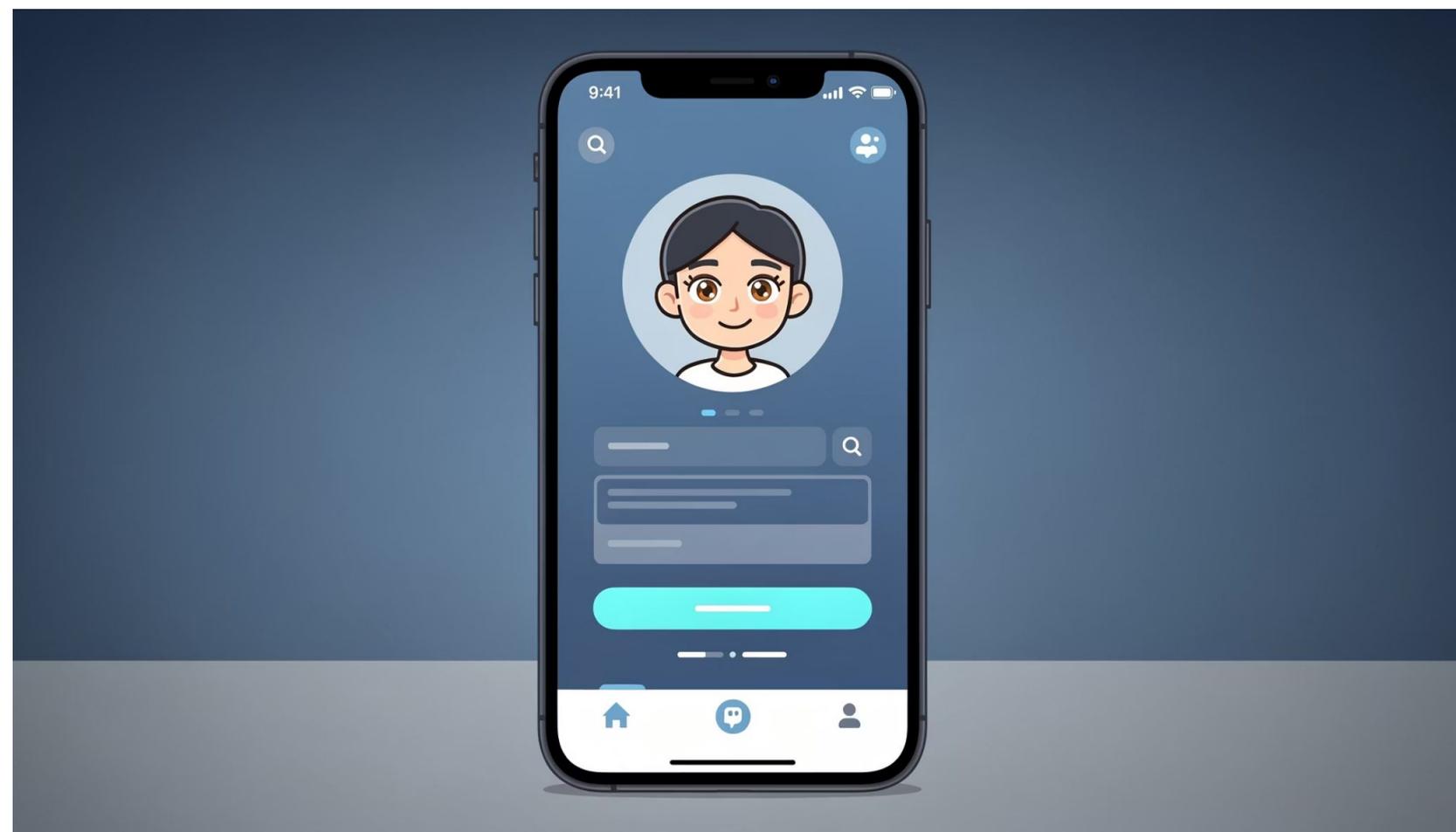


AIアバターの定義：寄り添うインターフェース

当社では、AIアバターを「継続的な対話を支える、人に寄り添うインターフェース」として捉えています。対話を起点に、**状態把握・改善支援・管理** までをつなぐ設計思想が根幹にあります。



アバターであることの意義



話しかけやすさ

テキストだけのやり取りより、声をかけやすく
継続的な接点を作りやすい

愛着形成

アバターとの関係性が深まることで、会話の
質そのものが向上する

習慣化・継続利用

成長・カスタマイズ機能により、日常的な利
用が自然に定着する



注力領域

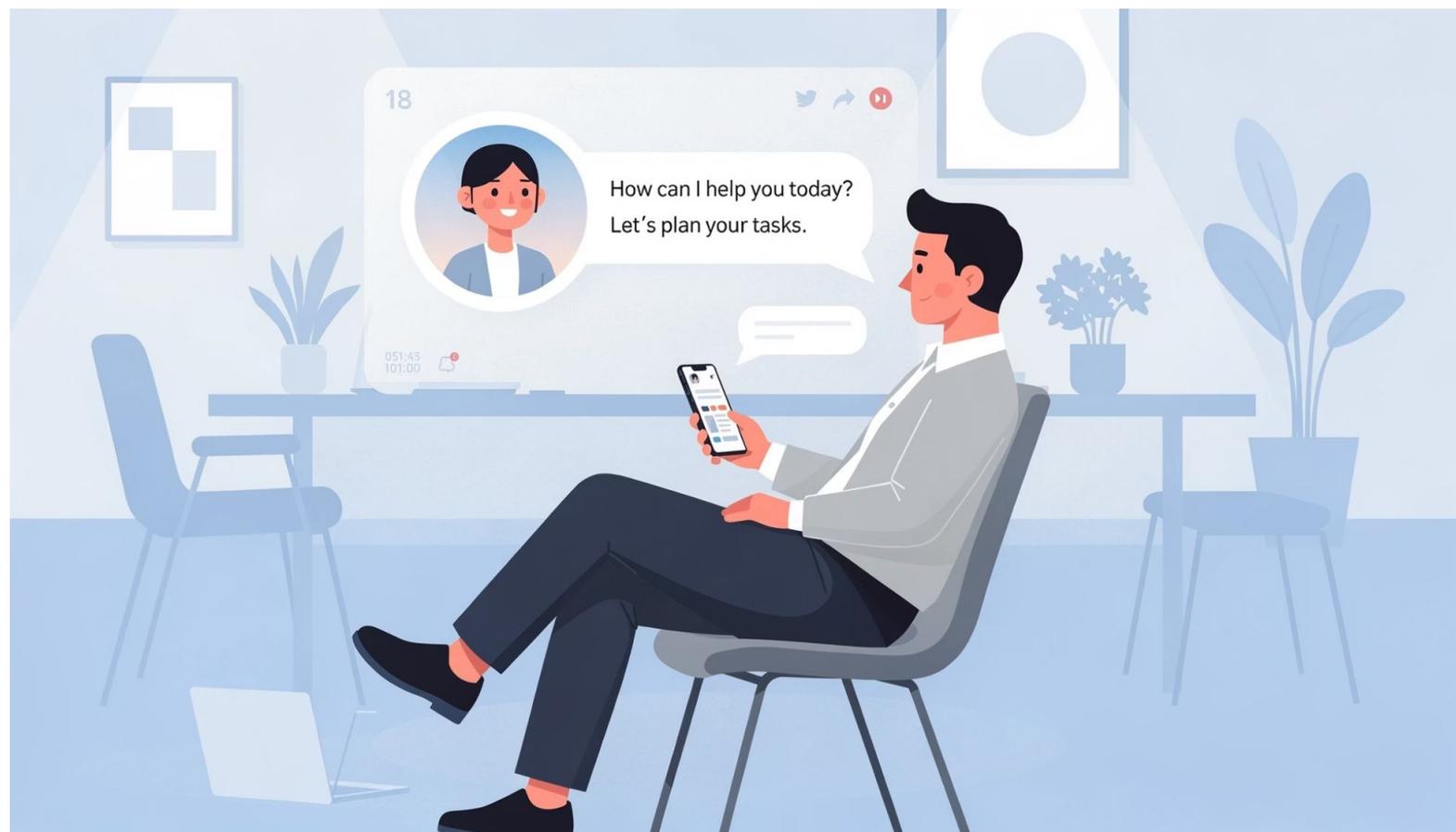
BtoB向けメンタルヘルス・プロダクト

多様なユースケースの中から、**ユースケースを明確に定めたメンタルヘルス領域** に現在注力しています。企業向け SaaSとして、可視化・管理とカウンセリングを一体で設計しているのが最大の特徴です。



Conversationモード：日常対話から状態把握へ

従業員がアバターと日次で会話することを起点に、やり取りを蓄積し、状態の変化を継続的に追います。



日次会話・状態把握

毎日の短い対話でコンディションを記録

業務日報の自動生成

会話内容から日報を自動作成し、業務負担を軽減

メンタル状態の5段階可視化

客観的な指標として管理者へ共有可能

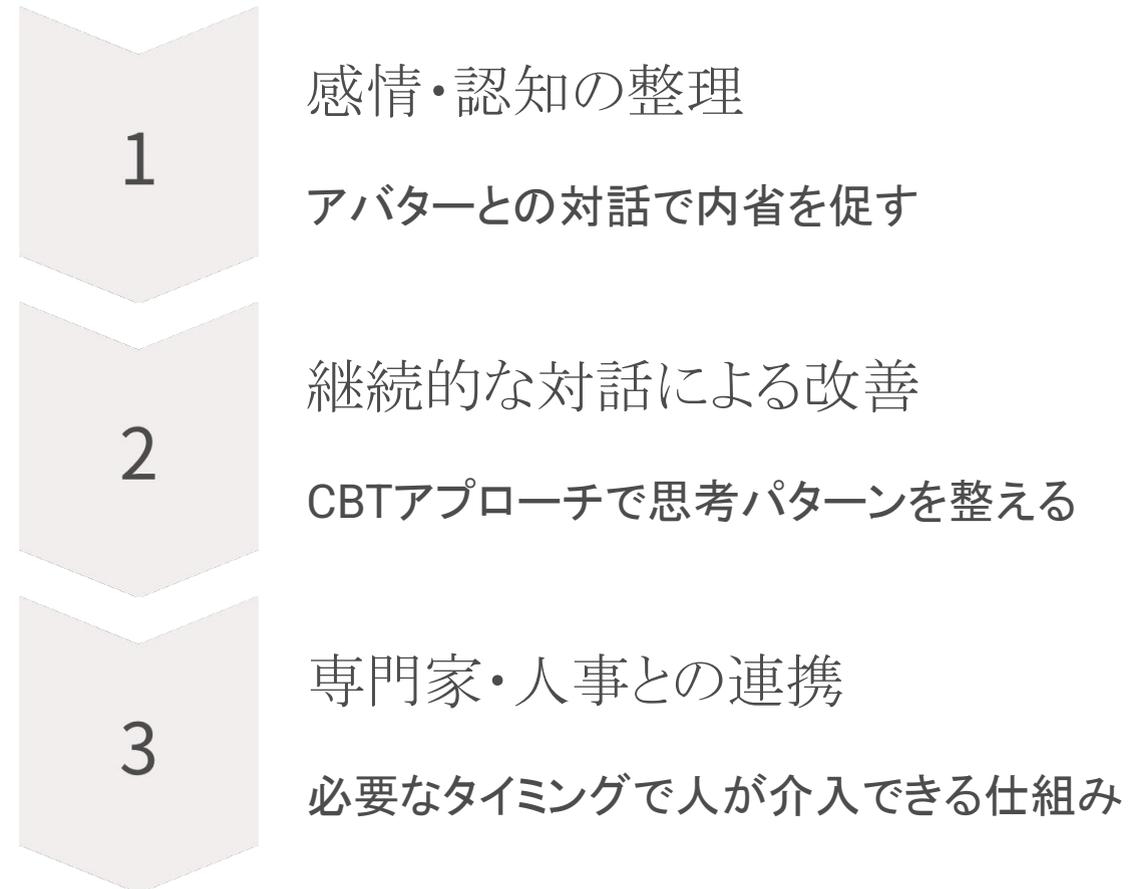


Counselingモード：認知行動療法ベースの改善支援

アプローチ

認知行動療法(CBT)をベースとした対話設計により、感情・認知の整理を支援します。精神科専門医・青木先生の知見を取り入れながら、**継続的な改善支援**へとつなげます。

- AIだけで完結させるのではなく、専門知見を踏まえた人の支援へつながる形を重視しています。



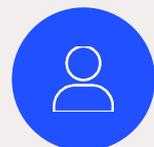


AIの役割: 人の介入を支える基盤

AIが人の代わりになるのではなく、人の介入を支える基盤となること。

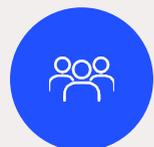
日々の小さな変化やサインをAIが拾い、マネジャー・人事が把握。**必要なタイミングで人が適切にフォローへ入れる** 仕組みを目指しています。

個人・チーム・組織全体を継続的に把握



個人レベル

日々のコンディション変化を本人・管理者が把握



チームレベル

チーム全体の傾向を可視化し、早期サポートへ



組織レベル

経営・人事が状態を俯瞰し、戦略的な判断材料に

管理者が適切なタイミングで動けるよう、状態データを継続的に蓄積・提供します。





業界への示唆

トラック業界が抱える課題

長時間労働・不規則勤務・一人で過ごす時間の長さから、**心身の負荷や孤独感が蓄積しやすい**環境があると伺ってます。一方で、管理者が日々の細かな状態変化を把握し続けることは容易ではありません。

形式的な報告では拾いきれない変化

点呼・日報

形式的なやり取りでは、微細な変化は見えにくい

孤立した業務環境

一人乗務が多く、周囲が気づく機会が限られる

管理者の限界

多数のドライバーを個別に継続フォローするのは現実的に難しい



アバター対話をもたらす可能性



話しやすい窓口

アバターへの日常的な対話は、人への報告より心理的ハードルが低い



状態把握の補助

管理者にとって、見えにくかったドライバーの状態変化を可視化

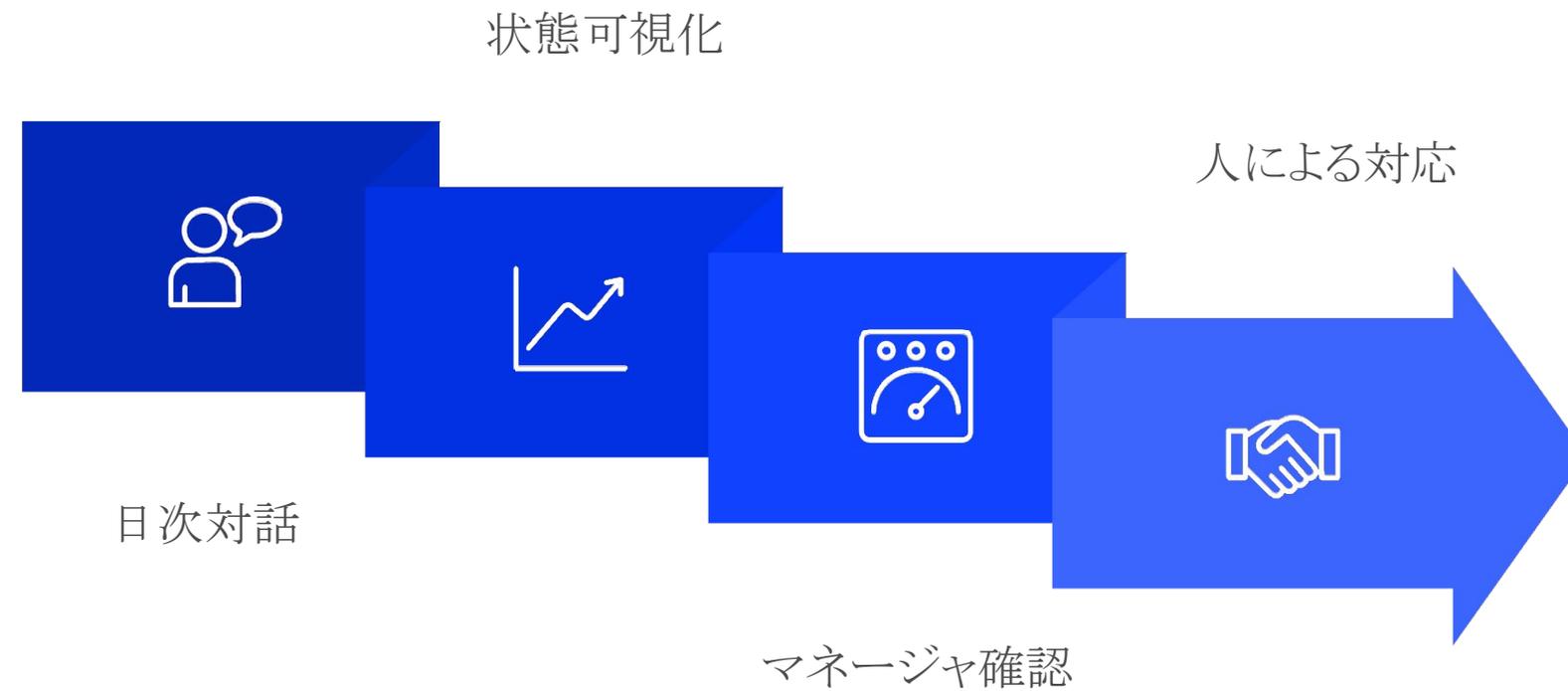


早期気づき・フォロー

日常的な見守りと、人によるフォローのきっかけづくりへ



「対話を起点に支援につなぐ」構造



この「対話→把握→支援」の連鎖は、**トラック業界をはじめ、さまざまな現場課題** に接続しうる考え方です。



本日お伝えしたいこと

現時点での提供ではない

トラック業界向けにそのまま使えるプロダクトとしてご紹介したわけではありません

考え方の示唆として

継続的な対話を起点に状態把握・支援へつなげる構造は、業界課題への一つのヒントになりうる

皆様との共創へ

業界を最もご存知の皆様のご知見をお借りしながら、意義ある形へつなげていければ幸いです





ご清聴ありがとうございました

今後、業界課題に対してAIの側でできることがあれば、ぜひご知見をいただきながら、**より意義のある形へとも考えていければ幸いです。**

株式会社AIアバター 川嶋

